

4 研究のまとめ

(2) 成果と課題

ア 成果

道徳科において、児童生徒が自己（人間として）の生き方について考えを深める学習指導の工夫について提案することができました。

- 「協働的な学び」を展開するための学習の流れを具体的に示すことができました。
- 「自己の考えの可視化」においては、言葉だけでなく多様な方法を取ったことで低学年においても自分の考えを見つめ直すきっかけになりました。
- 対話活動において児童生徒に対話の意図をもたせたり、関心を高めたりするための手立てを提案することができました。
- 「自己の生き方について考えを深める」ことを最終的なねらいとして、「協働的な学び」に取り組ませたことで、自分の考えにこだわったり、考えを修正したりする児童生徒の姿が多く見られました。

イ 課題

「協働的な学び」を進めるに当たって、発達の段階に応じてどの程度まで対話の質を求めるのか悩みました。自由な対話が大切である一方で、児童生徒任せにするだけでは、十分に考えが深まりません。教師の関わりを抑えながら児童生徒を深い学びに導いていくことは、これからも課題であると考えます。